

# 2020



# ときひがの子

校長だより  
令和2年  
1月10日  
第32号

新年 明けましておめでとうございます。

今年は、東京オリンピックの年。常磐東小学校創立百二十年を迎える年になります。

本校は規模は小さいですが、子供たちは、みんな学校が大好きです。それは、家庭や地域の皆さんが、学校をととても大切に思って協力してくださっているからです。

全教職員は、その気持ちに応えて、子供たちに積極的に関わり「生きる力」の育成に努めています。本当に多くの皆様方のご尽力に支えられてきました。

今年も、感謝の気持ちを忘れず、一日一日を大切にしていきたいと思えます。

## 今年「子年(ねどし)」でちゅ~!

今年、「子年」です。

始業式で子供たちに、「何と読みますか」と聞いたところ「ねずみとし」と答えました。意味としてはネズミの年」で合っていますが、正確には「ねどし」と読みます。

なぜ、「子」を「ねずみ」と読むようになったのでしょうか？

調べてみました。中国では、今から約 4000 年も前から、

「①子②丑③寅④卯⑤辰⑥巳⑦午⑧未⑨申⑩酉⑪戌⑫亥」(中国語での読み方は?)

「ね・うし・とら・う・たつ・み・うま・ひつじ・さる・とり・いぬ・い」(日本の読み方)

という文字があり、順序や年の 12 カ月を表すのに使われていたと言われていいます。もともとは、「子」の字に「ねずみ(鼠)」という意味はなく、12 個の中の 1 番目という意味でした。当時は一部の人だけしか文字やその意味を理解できませんでした。しかし、王様が文字をわかりやすくするために、身近な動物の名前をつけて覚えやすく、また分かりやすくしたそうです。



そこで、2000 年後の漢の時代に、「子」の字に「ねずみ」動物名がつけられて多くの人が親しみを持つようになったと言われていいます。

(普通に動物を漢字で書くと)「鼠・牛・虎・兔・龍・蛇・馬・羊・猿・鳥・犬・猪」

## 「正月」は「正」しい「月」なのですか？

約 2000 年前の中国では、「1 月」は「正月」として使われていました。

「なぜ、正月は『正』しい『月』と書くのでしょうか？」

「正」という漢字を調べてみると「正しい」の意味の他に、「基本」「あらためる(修正する)」、「きちんとする」などの意味があります。

仏教の教えの中にも、「正」とは、「一十止」「一に止まる)つまり、「一」とは「最初・基本・元」などの意味があり、「基本(初心)にかえる」という意味があるそうです。正しいことを行ったり、決断に迷ったときなどは、「基本の目標」に戻るとも言われています。

昔から、「一年の計は元旦にあり」とも言われており、意味は「一年の計画は元旦に立てるべきである」ということです。つまり、正月は、最初の月で一年の基本となる月なのです。ぜひ、この 1 月に自分の目標をもち、実現に向けて取り組んでほしいと思えます。

# 中日新聞

書き初め大会 令和2年1月8日掲載

## さあ3学期 思いを筆に



手本を見ながら書き初めに臨む児童  
ら＝岡崎市米河内町の常磐東小で

### 岡崎・常磐東小で書き初め大会

岡崎市米河内町の常磐東小学校で七日、全校児童が参加する新年恒例の書き初め大会があった。子どもたち

ちが真剣な表情で筆を運んだ。一～六年の計四十六人が体育館に集まり、書き初め

に臨んだ。常磐東小では四年前から三学期始業式後の新年最初の授業として開いている。

一、二年生は長机の前に正座して硬筆で「小学校に入って、はじめてのお正月です」などと書いた。三年生以上は体育館の床に新聞紙を広げ、毛筆で書き初めの半紙に「新春の光」「お正月」などとしたためた。児童らは手本を見ながら一文字一文字でいねいに書いた。

六年の青山翔大君(こ)は「中学校に進学する。勉強を頑張って楽しい年にしたい」と抱負を語った。

(鎌田旭昇)

このニュースは、**CBC テレビ**(1月7日 11時50分)、**ミクス「タウン通信」**(1月8日・1月9日)に放映されました。学校でもその映像を撮り、お昼の放送で視聴する予定です。